

# 巻頭言

## 新年を迎えて

蔵 知 毅

謹んで新年の御慶びを申し上げます。

昭和 36 年は丑歳でありますので、大いに畜産を伸ばすべき歳であると云われますが、干支に関係なくとも、今年こそは更に一段と畜産の発展を図らなければならぬ歳であると思われま

す。主穀農業に限界が見えて来ました今日、次の農業経営の安定化を図るものは、畜産と果樹であることは識者の一致した意見でありまして、それだけに畜産そのものの考え方も変えて来なければなりません。従来は畜産は個人経営的畜産であり、経営組織内の一小部分の畜産でしかなかったのでありますが、将来は畜産主産地形成を考えた集团的畜産に発展しなければならぬと思うのであります。

全国的にこの傾向が発生して来ますと、当然畜産物の増産が行なわれ、それ等の畜産物が国民の生活の中に溶け込んで来て、生活も向上されて来るわけでもありますが、一面生産者の立場から考えますと、増産した畜産物の価格の安定を図ることが必要になって来るわけでありまして。この意味に於て国では乳価の安定、肉類の価格安定対策を考慮しているようではありますが、更に卵価の安定対策も考えてほしいものであります。

消費が伸び、生産物の販路が拡張されることが、

更に生産を増加させるのでありまして、需要の伸びと価格安定こそ畜産の発展に必要な要素であります。この意味で京阪神市場を対象とした販路拡張も必要であり、生産物の流れをよくする対策も必要になって来るわけでありまして。従ってこの面でも大きく対策を考えて行きたいと思ひます。

更に草地農業の発展を図り、牧野改良や耕地の高度利用による飼料の自給化を拡大して、経営の安定を図ることも忘れてはならない点であります。

一面又畜産経営の新らしい技術を普及し、合理的な経営を行なうための教育機関の整備も必要になって来ますので、県は更に一段と教育施設の整備拡充を計画し、働き乍ら技術の習得の出来る様な施設を造りたいと念願しております。

かくしてあらゆる角度から従来は畜産の欠点を補い、新らしい分野から畜産の在り方を研究し、今年こそは大いに岡山県の畜産を発展させたいものであると思ふ次第であります。